

文章と図表などを結び付けながら内容を捉えよう

書き手は、図、表、グラフ、写真（挿絵）等を用いて、文章の内容を読み手に分かりやすく伝えよう工夫したり、主張に説得力をもたせよう工夫したりしています。文章の内容を捉える上で、図、表、グラフ、写真（挿絵）等を用いた書き手の意図や、それらの効果について考える指導が必要です。

具体的には、読むことの学習で扱う教材文に用いられている図表等を取り上げ、その効果や書き手の意図を考えた上で、文章と結び付けて内容を捉える指導が考えられます。また、書くことの学習と関連させ、書く目的や伝える相手に応じて、効果的に図表等を用いて書く指導を行うことも大切です。

ワークシート活用場面例

第1学年（10月）

「シカの『落ち穂拾い』
ーフィールドノートの
記録から」
（光村図書 P118～）

ポイント

筆者は、P122「図2（イネ科の草の供給量の変化）」を、P120「図1（『落ち穂拾い』に出会う割合の変化）」と同様のグラフを用いて比較しやすくさせ、仮説1についての検証結果を明確にしています。

このような、図を用いた筆者の意図を考えさせるために、例えば、『落ち穂拾いが多く生じる春は、シカの本来の食物が不足している時期である』という検証結果を読者に分かりやすく伝えるために、筆者は図の使い方をどのように工夫したのだろう。」という課題を設定した授業を行うことが考えられます。

結論に導いた調査結果を、図で明確に示している筆者の書きぶりの工夫を読み取る授業を展開しましょう。



第2学年（5月）

「生物が記録する科学
ーバイオリギングの可能性」
（光村図書 P42～）

ポイント

P47「図3（いっしょに潜水を繰り返すアデリーペンギン3羽の潜水行動）」は、「潜水開始と終了を一致させ、ウェッデルアザラシに捕食されないようにしていること」と、「餌を巡る競争を避け、異なる深さで餌を捕っていること」を示す調査結果です。

筆者は図表を用いて何を分かりやすく伝えようとしているのか、何に説得力をもたせようとしているのかなど、図表と文章を結び付けて内容を捉える授業を行うことが考えられます。

図を用いて、どんなことを分かりやすく伝えようとしているのか、書き手の意図を捉える授業を展開しましょう。



第3学年（5月）

「月の起源を探る」
（光村図書 P44～）

ポイント

筆者は「巨大衝突説」による月の形成の過程を読者に分かりやすく伝えるために、P47「図4（巨大衝突説）」では、図だけではわかりづらいことに補足説明を加えたり、本文に記されている月の形成の過程に沿いながら順序立てて示したりしています。

このような図表の示し方を考えさせるために、例えば、補足説明のない図や、順序立てて示されていない図などと比較させ、それらの効果を捉える授業を行うことが考えられます。

読者に分かりやすく伝えるために、どのように図を用いているのか、図の効果的な使い方を捉える授業を展開しましょう。

